

様式第2号

視察研修先	宮城県気仙沼市議会	氏名	鈴木 みゆき
視察研修項目	震災からの復興及び防災について		
感想・所見など			
<p>気仙沼市は宮城県の最北端に位置し、東は太平洋に面し、南は南三陸町、西は登米市、岩手県一関市、北は岩手県陸前高田市に接している。</p> <p>人口・世帯 平成23年2月28日(東日本大震災以前) 総数 74,247人 令和4年3月31日現在 総数 59,662人</p> <p>震災発生後の被害状況 浸水面積 18.65 Km² 全体の5.6% 地盤沈下 およそ70cm 市全域 4～5メートル東に移動</p> <p>人的被害 1,355人 内訳 直接死 1,033人、関連死110人、行方不明212人</p> <p>伝承館(旧向洋高校)の見学について</p> <p>最初、シアターで10分程度の映像を見た後、隣にある旧向洋高校を見学する。当時の津波被害をそのままに残している。印象に残ったのは、高校の三階の教室に乗用車が押し流されてきている光景だ。津波の破壊力は強力で、津波の下のほうが強く、上のほうが弱くなるようだ。たった一メートル程度の津波でも、家の倒壊をまねくほどのパワーがあるとのことだ。</p> <p>住宅の二階部分が津波で流され、たまたま旧向洋高校と隣の建物に挟まった状態で、母親と娘さんが助かった。屋上に逃げた先生方が一晩中、寝ないように声をかけ続けたそうだ。屋上近くまで津波が来た写真を見ると、想像しただけでものすごい恐怖を感じる。</p> <p>この高校の生徒たちは全員助かった。そのため、伝承するために高校を残したそうだ。屋上から、生徒たちが逃げたルートを教えてもらった。まず先に、近くの小高い丘にあるお寺に逃げた。生徒たちは、スマホなどを見ながら、情報を収集していた。どうやら、大きな津波がくるようだとなり、そこから、さらに高い丘へ走って逃げている。屋上から見ると、2キロ以上ありそうな距離だった。気仙沼市は、以前から生徒たちの防災意識が高く、評価されている。自主的に自助、共助もできるそうだ。</p> <p>屋上の見学のと、終わりに5分程度の映像を見る流れだった。それは、3.11の10日後に行われた、卒業式の映像だった。生徒会長が述べた言葉が耳に残る。「この津波で大きな被害を受けたが、天を恨まず、前向きに私たちは生きていく」というような言葉を述べていた。避難所となっている体育館で、避難している人たちも生徒たちもみんな一体となって、卒業式をしている。目頭が熱くなった。</p> <p>今回の視察で、自然と共に生き、命を守る心構えを再認識した。忘れてはならない経験であると同時に、後世に伝えていかなくてはいけないと思った。</p>			